

内なる対話～「意味ある世間話」となるや、否や?!～

堂本 彰夫

⑨ 何かが変わってきている?!そして、それは、これまでとはまったく違った位相のような?!

I : 気がついてみると、この間、こちらの方でも随分と沈黙?してしまいましたが、先号(⑧)では、「人類(民族)、宗教、政治体制、そしてカネ?!人間(人類)は、これらを、如何に克服できるのか?!」ということで、それらに関わる「国(家)と〇〇人の関係」について話をしましたよね?!

D : もちろん、ここでの対話自体は、ほとんどがさわり(入り口論)であり、その言わんとするところが、正確に伝わったかどうかは、甚だ疑わしいのですが、要は、そのことは、「国(家)と〇〇人の関係」の中で考えていかなければならない!何故なら、それは、所属している(国籍を有している)それぞれの国において実現(克服)されるものですが(もちろん単独ではできない!)、その「国民」が、必ずしも一様ではないからです(単純に、〇〇国=〇〇人という前提で話が出来ないということ!)?!

I : 例えば、それが、ウクライナ(人/国)であったり、ロシア(人/国)であったりするわけですが、その中で、人種的にはウクライナ人であるが、ロシア(国)人でもある!ロシア人ではあるが、ウクライナ(国)人でもある!しかしながら、当座(現在)の「国との関係」ということでは、そういうことが捨象される?国際社会、あるいはスポーツ競技等の中では、一つの〇〇国(の代表)、そういうことで、個々人が、その枠組みの中に包摂されている?そういうことですよ?!

D : そうです!つまり、そこでは、人種と国(籍)が一致していない!そして、それが拡大している(ボーダーレス化 or シームレス化が進行している?)?!もちろん、そうなる背景には、幾つかの理由があるわけですが(戦争、移民/移住、就労、婚姻等)、そのことが、むしろ当たり前の状態ともなっているわけですよ?!だから、〇〇(国)人ではあるが、「〇〇人(種)」ではない?!否、最早、そうした単純な括りでは、現実が成り立たない(2世、3世等ともなれば、なおさらである?)?!

I : ということは、極端に言えば、そこでは、「国(家)としてのあり様」が根本的に変わってきているとも言える?!単なる量的な変化ではなく、そこには、何か位相の転換のようなものが出現している?!ある意味で言えば、それは、「近代(国家)」という名の「共同幻想?」(国(家)についての約束事?)、それ自体を打ち破ろうとしているとも言える(もちろん、それはいい意味でももある!)?!

D : だから、もし、そうであれば、そこにあった?「自由」「平等」「博愛」、あるいは「民主主義」といった「近代(国家)の要素」の、言わば「盛り付け器」(ある種の装置 or 約束事?)、すなわち「国(家)」のあり様を変質させようとしていることになるわけですが、別言すれば、一つの「人種(民族)」「宗教」「政治体制」という基盤で創り上げられてきた、これまでの「国民国家」の内実(〇〇国=〇〇人という前提)が、変容を余儀なくされてきているということにもなるということですよ?!

I : つまり、それ(「国民国家」)は、あくまでも「ある種の装置 or 約束事? (共同幻想?)」であるので、その基盤が変われば、そのあり様も変わる?!もちろん、それは、今回の某国の、隣国への侵攻(侵略?)、及びそこから派生してきた様々な問題(国家間の駆け引き等を含む)を見れば明らかなのですが、これまでの経験(約束事?)からだけでは対処できないような事態が、まさに全世界的規模で出来してくる?そういうことですよ(温暖化や新型コロナへの対応等の問題も、それに加わる?)?!

D : そういうことですよ?!だから、例えば、「与党/野党」とか、「保守/革新」とかといったような、「従来は意味のあった?」対立軸(レッテル?)が、ほとんど役に立たない(どちらかの勝利とされるとしても!)?!何故なら、そこには、ここで言う「国(家)」のあり様、そのあり様を考える上での大前提、まさに「新たな(次なる?)国(家)観」あるいは、そこに必要な内実が真摯に問われる必要があるということですが、まだまだ従来通りの落としどころ?で終始している?!したがって、具体的で、有効な解決の糸口が見出されていない?!そういうようにも言えるのです?! (つづく)